



[卒論のテーマにと来訪した大学生](#)



[平穏死と看取りについての語り合い](#)

浜松市天竜区春野町で、山里のオープンハウス「春野人めぐり」が開催された。令和元年12月7日と8日の両日。第1回目は、8年前の2011年の12月。以来、17回目となる。

「山里の普通の暮らしの魅力、人の魅力の発信」であり、「移住者と地元、そして、まちなかの人をつなぐ」という意義がある。春野の山里がギャラリー、初冬の山里の冬じたく、ぬくもり求めての里山ゆるり旅。

まちなかの人たちに、普通の山里の暮らしをみてもらう。
参加した家や店は、22軒。たとえば、こんな家々。

家具製作、和菓子、森林資源活用の里山資本主義の実践、縁側茶屋、うなぎの養殖、リラックソヨーガと手作りケーキ、広葉樹の森作り、しいたけとお茶農家、野草ピザ体験、ミツロウのキャンドル作り、木工細工、ヤギと鶏の飼育、フォーク喫茶、デイサービスなど、多彩な顔ぶれ。

特派員（池谷）の家も参加した。訪れたのは、地域の活性化を卒論のテーマにしたいと、熱心に取材に来た大学生。

さらには、特養（特別養護老人ホーム）に勤めて介護の仕事をしている女性。「平穏死と看取り」。デイサービスにある菜園と利用者との作業などについての語りあい。

他の集落からは、山里の人材の魅力についてを語りたいという方。清流沿いに、陶芸家、和紙の達人、竹細工、骨董品屋、手作り家具、廃校を活用した木製の机と椅子の製作所、蔵を活用したギャラリー、いつも全国金賞の茶園、縄文遺跡、棚田など、魅力が満載。そうした、点と点を結んで、企画してみたいという方との語り合い。

さらには、春野の山里に移住した30代、子連れの夫婦。「便利屋」の仕事をしている。田んぼも始めた。こんど、炭焼をしたいという。家の改修に土壁を作りたいともいう。

家族連れで、山里を訪れるひとつのきっかけとなり、一度訪ねて親交を結べば、いつでも気楽に訪ねられる。

問い合わせ：春野協働センター 053-983-0001（藤江） みんなの家 080-5412-6370（池谷）

浜松北部生きがい特派員 池谷 啓



[集落の魅力発信についての語り合い](#)



[子連れで参加した夫婦](#)